

報道関係各位

次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘・応援する、東京ミッドタウンの取り組みをお届けします！

## 「Tokyo Midtown Award 2012」 ニュースレター 第 2 号 <アートコンペ> 2 次審査通過 6 作品決定！

今年開業 5 周年を迎えた東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、街のコンセプトである「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街を目指し一環として、毎年、アートコンペとデザインコンペからなる「Tokyo Midtown Award」を開催しています。

過去 4 回の開催で、延べ応募者数約 5 千組の中から、アートコンペでは 15 組、デザインコンペでは 37 組の受賞者が生まれ、活躍の場を広げています。今年は、「Tokyo Midtown Award」開催 5 回目という節目を迎えるにあたり、若手の登竜門となるべく受賞アーティスト・デザイナーにさらなる活躍の場をご提供できるよう、コンペティション後の支援を強化していきます。

### <目次>

1. 「Tokyo Midtown Award 2012」<アートコンペ> 最終審査へ挑む 6 作品決定！
  - ・ 最終審査通過 6 作品の紹介
  - ・ 審査員の総評
2. <アートコンペ> 今後の審査の流れ
3. <アートコンペ> 受賞者の直近の活躍
4. 六本木のデザインとアートと人をつなぐ WEB マガジンサイト「六本木未来会議」更新中！

### 1. 「Tokyo Midtown Award 2012」<アートコンペ> 最終審査へ挑む 6 作品決定！

今年は昨年に引き続き「都市」をテーマに募集し、241 点の応募がありました。1 次審査、2 次審査を経て、ついに最終審査に挑む 6 作品が決定しました。今後、10 月 15 日(月)に最終審査を実施し、グランプリ・準グランプリを各 1 点、入選の 4 点を決定します。受賞作品は「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2012」初日の 10 月 26 日(金)に行う授賞式で発表します。以下は 2 次審査を経て、勝ち進んできた 6 作品です。

#### (2 次審査通過 6 作品の紹介 ※五十音順 )

『「中に入れてくれ」、と屋外は言った。』

太田 遼 (おおた はるか)

28 歳。作家。2010 年武蔵野美術大学大学院修了。



#### <展覧会歴>

- 2012 年「安全・安心プロジェクト」(Art Center Ongoing)
- 2011 年「第 4 回 Art-icle award」(ターナーギャラリー)
- 2010 年「松戸アートラインプロジェクト 2010」
- 2010 年「群馬青年ビエンナーレ 2010」(群馬県立近代美術館)

#### <審査員コメント>

都市の内と外の問題、公的と私的な住宅、異質なものの組み合わせが面白い。確実に作品プランを実現できる力が有る。

## 『Beautiful midnight』

大村雪乃（おおむら ゆきの）

24 歳。学生。多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻在籍。



### <展覧会歴>

2011 年「全然こわくない」(ギャラリーQ)

2010 年「the six 2010」(ラフォーレミュージアム原宿)

### <受賞歴>

2010 年「多摩美術大学奨学金授与」

2010 年「the six 2010 web 審査入選」

### <審査員コメント>

ホテルに宿泊して制作するという、東京ミッドタウンの特徴を活かしたパフォーマンスの要素もあり、平面作品ながら、発想と素材の意外性が際立っていた。迫力あるユニークな展示になることを期待する。

## 『一戸建てマンション』

角 文平（かど ぶんぺい）

34 歳。造形作家。2002 年武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科金工専攻卒業。



### <展覧会歴>

2012 年「個展」(アートフロントギャラリー)

2011 年「SICF12」(スパイラル)

2007 年「第 10 回岡本太郎現代芸術大賞展」  
(川崎市岡本太郎美術館)

### <受賞歴>

2008 年「武蔵野美術大学 パリ賞」

2006 年・2007 年「岡本太郎現代芸術大賞展 特別賞」

### <審査員コメント>

作品の見せ方も含め、すでに高いセンスを持った作家だと思う。ただ現代における「家」の持つ意味、戸建て住宅、集合住宅も含め、その内側に隠された「家とは何か？」を暴いて欲しい。

## 『to-kyo』

下平千夏（しもだいら ちなつ）

29 歳。美術作家。2007 年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。

2010 年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。



### <展覧会歴>

2011 年「TAMAVIVANT II」(パルテノン多摩)

2010 年 個展 (INAX Gallery 2)

2009 年「越後妻有トリエンナーレ」

### <受賞歴>

2010 年「六甲ミーツアート入選」

2007 年「武蔵野美術大学卒業修了展 学校賞」

### <審査員コメント>

過去の作品を含め、実力のある作家なので、今回もレベルの高い作品を期待している。どのような質感を実現できるか、これからの勝負である。

## 『世界と赤い屋根の団地』

林田 健 (はやしだ けん)

33 歳。絵描き。

名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画コース卒業。



### <審査員コメント>

展示場所が平面作品にとって条件が厳しい本コンペで初めて2次審査を通過した、正統派の絵画作品。団地というモチーフとのギャップを含め、場所に負けない迫力のある作品として、展示に臨んで欲しい。

### <展覧会歴>

2012 年「SICF13」(スパイラルホール)  
2009 年 個展(トーキョーワンダーサイト本郷)

### <受賞歴>

2012 年「TOKAI GECKO AWARD 2012 5 位入選」  
2011 年「第 69 回一宮市美術展 市長賞」  
2011 年「第 4 回アーティクル賞 入選」  
2011 年「Asian Art Way 2011 in SHANGHAI、半島 1919 日本文化村賞」  
2011 年「Spiral Independent Creators Festival 12、南條史生賞」  
2011 年「第 74 回河北美術展、山本壮一郎賞」  
2010 年「第 14 回新生展 入選」  
2008 年「トーキョーワンダーウォール公募 2008 入選」

## 『風景「都市と生きる」』

宮本 宗 (みやもと ひろむ)

26 歳。アーティスト。2012 年愛知県立芸術大学大学院修了。



### <審査員コメント>

昨年の 2 次審査と比べて、今回のプレゼンは大変リアルでよかった。作家の思っていることと、手技とが一致していた。彫刻として大変力強い。

### <展覧会歴>

2012 年「きてみん！奥三河 アートの森 新城企画展 2012」  
2010 年「瀬戸内国際芸術祭 2010」  
2010 年「個展」(AST 津ギャラリー)  
2010 年「アートアワードトーキョー丸の内 2010 ノミネート」  
2009 年「長久手アートフェスティバル 2009」

## (審査員による 2 次審査総評)



### 児島やよい (フリーランス・キュレーター／ライター)

本コンペは毎年レベルアップしていて、1 次審査通過者の 12 名で展覧会が一つ成立するくらいの力作ぞろいだった。落選した方が力で劣っていた訳ではなく、本コンペの主旨・展示条件に対して呼応できているかどうか、そこが審査結果となった。



### 清水敏男 (東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授)

二次審査に残った作品案は多数の応募の中から選ばれ、いずれも優れた作品案である。さらに最終選考にまで進んだ作品案はコンセプトが明快であり、技術も実現性が高く、完成作品が期待できるところが評価された。最終選考に進めなかった作品案も優れていたが紙一重の差でおよばなかった。コンセプト、技術ともに再考の余地がある。このコンペは作品を作るだけでなく自分をプロデュースしなくてはならないので難度が高い。また公共の場所に設置されるので安全性に配慮しなくてはならない。最終選考に残った人たちもさらに研究を重ねて素晴らしい完成作品を制作して欲しい。

Photo by Herbie Yamaguchi



### 土屋公雄（彫刻家／愛知県立芸術大学大学院教授）

なぜ我々が二次審査で作家本人を呼んでプレゼンテーションをしていただくかは、本コンペの展示空間が美術館のようなホワイトキューブではなく、通路という日常的で公共性の高い「場」であるから、いかにその特殊な空間に現実性を持って作品制作・展示できるかが、審査の明暗を分けた。本コンペは、この特殊性を生かした東京ミッドタウン・オリジナルのコンペが魅力であり、多くの人の目に触れ、ここから次世代を担うアーティストが生まれることを願っている。



### 中山ダイスケ（アーティスト／東北芸術工科大学教授）

私自身も、様々なコンペに応募しては落選し、合格し、ここまでなんとかやってきた。コンペに落ちた理由、受かった理由は通常明らかにされないが、本コンペはその理由を伝える。審査員と対話できるこの機会を糧にステップアップしてほしい。

Photo by Miura Haruko

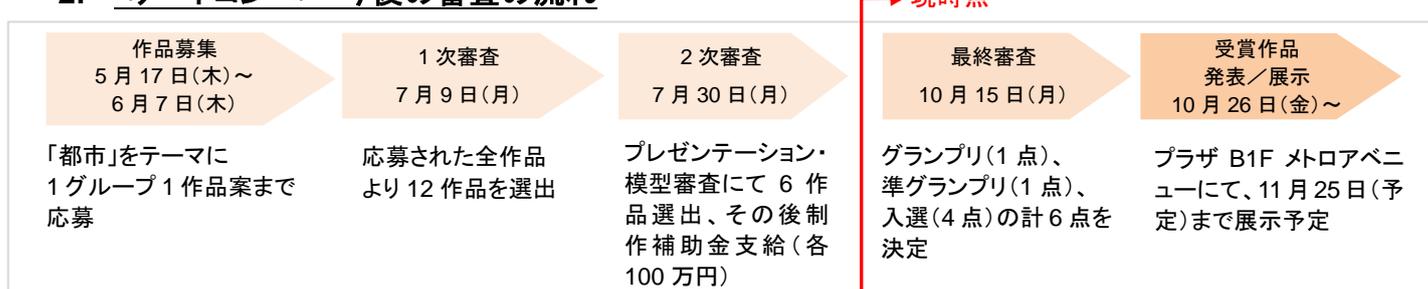


### 八谷和彦（メディア・アーティスト／東京藝術大学准教授）

12組のアーティストのうち6組が展示することになったが、結果的には会場の特性に強く合った作品が選ばれたと思う。今回は今までなかなか入選しなかった平面の作品や体験型の作品も入選し、前回とはまた違った形で観客の方に楽しんでもらえるのではないかとすごく期待している。

Photo by 米倉裕貴

## 2. <アートコンペ> 今後の審査の流れ



## 3. <アートコンペ> 受賞者の直近の活躍

過去に「Tokyo Midtown Award」を受賞した方々がさまざまな場所で活躍されています。

- Tokyo Midtown Award 2011 アートコンペ受賞者、米元優曜さん**

➢ 米元優曜さんの作品「Stream Line」が、「第5回現代ガラス展 in 山陽小野」にて優秀賞を受賞しました。作品は2012年8月26日(日)まで山口県の「おのだサンパーク」にて展示中です。

関連リンク: 第5回現代ガラス展 in 山陽小野田  
(URL:<http://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/site/glass-art/5top.html>)
- Tokyo Midtown Award 2008 アートコンペ受賞者、小松宏誠さん**

➢ 小松宏誠さんが今年の7月14日(土)から9月2日(日)まで千葉県立美術館で開催中の、グループ展「魔法の美術館 光のアート展 -光と遊ぶ超体験型ミュージアム-」に参加しています。

関連リンク: 「魔法の美術館 光のアート展」  
(URL:<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/special/120714hikari/index.html>)

上記の他に多くの「Tokyo Midtown Award」受賞者がアート・デザイン界で活躍されています。

詳細は以下「Tokyo Midtown Award 2012」オフィシャル HP をご参照ください。

(URL:<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/index.html>)

#### 4. 六本木のデザインとアートと人をつなぐWEBマガジンサイト「六本木未来会議」更新中！

「六本木未来会議」は、今年で5回目となる「Tokyo Midtown Award」を主催する東京ミッドタウンが、「デザインとアートの街 六本木」を活性化すべく立ち上げたサイトです。六本木エリアの主要なデザイン・アート施設や六本木商店街振興組合と協力し地域一体で取り組みを行います。

サイトでは、同エリア内のデザインやアートに関する情報の発信の他、第一線で活躍するデザイン・アート界のキーパーソンにインタビューを敢行し、「これから六本木はどうあるべきか」といったテーマのお話をお届けします。

これまで、サイトの開設から約3ヶ月でアートディレクターやグラフィックディレクター、建築家、構成作家、デザイナーなど計12名(または9組)の方のインタビューを行いました。9月5日(水)には全く新しいコンセプトのショップやイベントなどを手掛ける株式会社スマイルズ代表取締役社長遠山正道氏のインタビューを更新予定です。



▲ 六本木未来会議 イメージ

今後「六本木未来会議」では、下記インタビューを予定しております。

- ・ウルトラテクノロジスト集団チームラボ代表 猪子寿之 8月27日(月)撮影・取材 15:00～
  - ・グラフィックデザイナー・アートディレクター 佐藤可士和 9月5日(水)撮影・取材 12:15～
- ※事前にお問合せ頂ければ、インタビュー時に取材にお越しいただくことも可能です。

(URL: <http://6mirai.tokyo-midtown.com/>)